



▼人形のユーモラスな動きに子どもたちの大きな歓声が上がった人形劇公演



## 人形劇を通して触れる文化

町生涯学習センター自主文化事業を開催

9月23日（金）町生涯学習センターで、人形劇公演「金の斧（おの）と銀の斧」が開催されました。

同公演は、子どもも大人も同じ空間に集い、生の芸術に触れて感動を共有することで、子どもの豊かな心をはぐくむとともに地域の文化振興を図ることを目的に、町教育委員会が同センター自主文化事業として実施し、従来、開催要望が多かった人形劇を公演。劇団ぱれっとを招いて開催し、親子など約150人が人形劇を観劇しました。

森を流れる川で、斧をなくしたきこりを主人公とするイソップ童話を基にした物語、「金の斧と銀の斧」を上演。幕が上がると、ユーモラスな動きに子どもたちから大歓声が上がります。物語が進むうちに、会場は人形劇の世界にくぎ付けになりました。

保育園児の子どもと来場した30代の女性は「子どもと一緒に、とても楽しく過ごせました。生で人形劇を観ることがあまりないので、うれしいですね」と感想を述べました。

## 季節を彩る黄色い花畑

西原区で遊休農地に植えたヒマワリが満開

9月上旬、西原区（栗林幸一郎区長13世帯）の遊休農地などに植えられたヒマワリ畑に、黄色い大きなヒマワリの花が一面満開に咲き誇りました。

同区では、町が耕作放棄地などの解消と環境保全を図るために、試験的に食用油用ヒマワリ種子を配布した事業を活用して取り組みました。

同区民は「試しに植えてみようという話が出て、希望者で試してみました。食用油を採取するのも楽しみです。花が咲き、風景が明るくなってとてもいいです」と話しました。



▲9月上旬、西原区の遊休農地などにヒマワリが満開



▲上益城代表として発表した安藤さん

## 「少年の主張」で入選

安藤芽衣さん（甲佐中3年・府領区）

9月17日（土）上天草市で、第33回「少年の主張」県大会が開催され、甲佐中3年の安藤芽衣さん（府領区）が上益城代表として出場し、入選しました。

同大会は、中学生の健全育成を目的に、県、県教育委員会などが主催。今年は、県内中学生2,765人が応募し、地区審査を経た14人が代表として、学校生活や将来の夢、家族などについて主張しました。

安藤さんは「掃除人生論」と題し、部屋を片付けるために参考として読んだ本から気付かされた、人生における大切なことについて主張。「何が必要で、何が不必要かの線引きができない人は、人生でもなすべきことが明確にならない。掃除は人生の道しるべになる」と発表しました。

## みんなの川を大切に

### 緑川流域の町内4か所で一斉清掃

8月27日（土）緑川流域の町内4か所で、平成23年度くまもと・みんなの川と海づくりデー緑川一斉清掃が実施されました。

同活動は、県内の川と海を守って次代に引き継ぐことを目的に、県と町が主催。町内では、井戸江峡、中甲橋グリーンパーク、麻生原運動公園、津志田河川自然公園で実施し、約110人が参加。収集したごみは、全体で2.5立方メートル（ごみ袋約80袋分）でした。

町環境衛生課は、「環境美化への意識の高まりから、毎年減っています」と述べました。



▲「みんなの川と海づくりデー」の井戸江峡での清掃



▲肩をもちながら高齢者と交流する児童たち

## 白旗小児童が高齢者と交流

### ケアハウス桜の丘を訪問

9月21日（水）白旗小学校の2年生10人が、西寒野のケアハウス桜の丘（宮崎真樹子施設長30人）を訪問して、同施設に入居している高齢者と交流しました。

地域について学ぶ授業の一環として、同施設を訪問。交流では、児童たちが新入生のときに入居者から手作り鉛筆立てをいただいたことへのお礼として、夏休みに親子でペットボトルを利用して作ったカラフルな風車を贈呈。また、「いただいた鉛筆立てを大切に使っています。皆さんのように、長生きしたいです」と、お礼の手紙を読み上げました。

続いて、童謡などを合唱して発表した後、児童たちは入居者の肩をもちながら昔の懐かしい話を聞くなどして触れ合いました。

## 甲佐中生徒が農業体験学習

### 甲佐町産業後継者育成対策協議会



▲県立農業大学のナシ畑での摘み取り体験。愛情を掛けて育てた農作物を収穫して食べる喜び、おいしく食べてもらう喜びも合わせて体験

8月25日（木）～26日（金）甲佐町産業後継者育成対策協議会（本田新会長）が、甲佐中学校1年生を対象とした農業体験学習を実施しました。

体験学習を通して、農業の大切さ、農作物を育てる厳しさを学ぶとともに、生産・収穫・加工における研修を通して、農業の魅力を感じることを目的に毎年開催し、20人が参加しました。

1日目は、合志市の県立農業大学校やJA教育センターなどで視察研修を受講。同校では、ナシの摘み取りなどを体験。生徒たちはナシ畑で収穫して、ナシの糖度を測定し試食。続いて、花き栽培農家のハウスなど生産現場を視察。実際に農業に従事し、生産して出荷することで生計を立てている農家の苦労話や、今後の農業に対する抱負などを詳しく聞きました。

2日目は、阿蘇市の阿蘇ミルク牧場を訪問し、体験施設で手づくりウィンナーに挑戦。ひき肉を混ぜ合わせ、ヒツジの腸に袋詰めする作業に真剣に取り組み、見事なウィンナーに仕上げました。また、昼食のバイキングでは、豊富な地元産食材の料理を前にして、安心な地産地消の大切さを再確認しました。